保護者向け

令和2年７月
北海道教育委員会
ネットトラブル未然防止のための総合ヘルプサイト

インターネットの中での 誹謗中傷・悪口について

インターネットの利用が一般的になった昨今、誰もが誹謗中傷や悪口の被害者、そして加害者になりかねません。子どもがトラブルに巻き込まれないためには何を知っておけばよいのでしょうか。

被害者になるケース（子どもが誹謗中傷の被害に遭ってしまったら？）

一番怖いのは誹謗中傷されている、悪口を言われているということを本人が明かしてくれないケースです。被害を受けていることを周りの大人が知ることができなければ、助けてあげることもできません。まずは「何かあったら話してね」ということを日常的に伝え、子どもの異変に早めに気づいてあげることが大切です。

実際に誹謗中傷や悪口を受けていることがわかった場合、

①相手にしないことが一番だと教えましょう。
特に匿名の誹謗中傷は相手にするだけ時間の無駄ですので無視できるようになることがポイントです。

②投稿を消したい場合、サイトへの削除依頼などの対処が必要です。
インターネットに詳しくない場合は本サイト（下記参照）でも相談に乗ることができますので、お気軽に活用してください。

加害者になるケース（子どもが誹謗中傷や悪口を書き込んでしまったら？）

①書き込んだ投稿はすぐに自分で削除させるようにしましょう。
誹謗中傷の投稿は名誉棄損罪や侮辱罪に問われる可能性があります。

②「なぜやってはいけないのか」を考えられるようになる必要があります。
根本的な解決に向けて、子どもと一緒に、自分や自分の大切な人が同じように誹謗中傷されていたらどう思うかを考えてみるというのも効果的です。

ポ　イ　ン　ト

インターネット利用のことを、日常的な話題として、子どもたちの利用状況の理解に努め、子どもたちが普段と違う様子を見せたら、インターネット利用のことも念頭に話しかけるなどすることも大切です。子どもたちはインターネットの中では気が大きくなってしまったり、軽い気持ちで書込みしてしまう子もいます。誹謗中傷や悪口は絶対ダメ！！ということを教えましょう。

ネットトラブル未然防止のための総合ヘルプサイト
ネット利用に関わる専門的な相談の窓口です

◎本資料は北海道教育委員会とピットクルー株式会社が令和2年7月に作成したものです。
子どもたちのインターネット利用に関わる相談がありましたら、下記URLまでご相談ください。
≪北海道教育委員会ネットトラブル未然防止のための総合ヘルプサイト≫
https://webreport.pit-crew.co.jp/hokkaido/helpsite/

北海道教育委員会
令和2年8月

インターネットの悪口になやんでいませんか？

インターネットの中の悪口にはどう向き合えばよいか考えてみましょう。

① 悪口を書かれてしまったとき

〇書かれても相手にしない

〇書かれたことを先生や親に伝える

インターネット上の悪口を聞き流す力のことを「スルースキル」と呼びます。悪口を書かれても、この「スルースキル」を使って、相手にしないことが大切です。

【やってはいけないこと！】

悪口を書かれても、相手に反論したり、言い返そうとしてはいけません。インターネットの中で悪口を書く人は相手が反応するのを面白がって見ています。

② 書き込みを消したいとき

〇消したいことを先生や親に相談する

〇相談窓口に相談する

≪ネットトラブル未然防止のための総合ヘルプサイト≫

(本サイトです)　相談窓口からメールで相談できます　⇒

誹謗中傷ホットライン
（セーファーインターネット協会）

誹謗中傷ホットライン

インターネットの中のすべての書き込みは誰がいつ書いたのかがわかるように記録が残されています。それをもとに、書き込んだ人を見つけて、書き込みを削除してもらうことができます。

◎本資料は北海道教育委員会の委託を受けてピットクルー株式会社が令和2年7月に作成したものです。

参考資料

文部科学省

新型コロナウイルス感染症を理由とした差別や偏見などでつらい思いをしたら

児童生徒等の皆さんの不安や悩みを受け止める相談窓口は、下記の通りです。一人で苦しまず、ぜひ利用してみて話をしてみてください。

- 24時間子どもSOSダイアル　0120-0-78310
  https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1306988.htm

- 子どもの人権110番≪法務省≫　0120-007-110
  http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken112.html

- 都道府県警察の少年相談窓口
  https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/syonen/soudan.html

- いのちの電話の相談　0120-783-556
  一般社団法人日本いのちの電話連盟
  https://www.inochinodenwa.org/

- チャイルドライン（18歳までの子供が対象）　0120-99-7777
  https://childline.or.jp/

- 新型コロナこころの健康相談電話　050-3628-5672
  一般社団法人日本臨床心理士会、一般社団法人日本公認心理師協会
  http://www.jsccp.jp/info/infonews/detail?no=730

文部科学省ホームページより作成

文部科学省

保護者や地域の皆様へ

学校において、児童生徒等の学びを確保するための取組を進めることができておりますのは、保護者や地域の皆様に感染症対策の取組に御理解と御協力を賜っているからであり、心より感謝申し上げます。

しかし、このような取組を徹底しても学校や家庭、社会において感染するリスクをゼロにすることはできません。誰もが感染する可能性があります。その上、新型コロナウイルス感染症には未だ解明されていない点があり、ワクチンも開発中であることから、この感染症に対する不安をお持ちの方が多いと思います。

私たちは、この感染症と、この感染症がもたらした社会の変化に対して、現時点での科学的な知見や見解に基づいて、正しく向き合うことが必要です。私からは、保護者や地域の皆様に次の二点をお願いいたします。

第一に、感染者に対する差別や偏見、誹謗中傷等を許さないということです。

誰もが感染する可能性があるのですから、感染した児童生徒等や教職員、学校の対応を責めるのではなく、衛生管理を徹底し、更なる感染を防ぐことが大切です。

そして、自分が差別等を行わないことだけでなく、「感染した個人や学校を特定して非難する」「感染者と同じ職場の人や、医療従事者などの家族が感染しているのではないかと疑い悪口を言う」など身の周りに差別等につながる発言や行動があったときには、それに同調せずに、「そんなことはやめよう」と声をあげていただきたい。人々の優しさはウイルスとの闘いの強い武器になります。

感染を責める雰囲気が広がると、医療機関での受診が遅れたり、感染を隠したりすることにもつながりかねず、結局は地域での感染の拡大にもつながり得ます。その点からも差別等を防ぐことは必要なことです。

第二に、学校における感染症対策と教育活動の両立に対する御理解と御協力です。

感染症への対応が長期にわたることが想定される中、学校では、感染症対策を講じつつ学校教育ならではの学びを大事にしながら教育活動を進め、子供たちの健やかな学びを最大限保障するための取組を進めていただいているところです。また、大学についても、感染症対策の徹底と、対面による授業の検討も含めた学修機会の確保の両立をお願いしております。

これからの予測困難な時代を生きていく児童生徒等や学生が、必要となる力を身に付けていくことができるよう、学校の教育活動の継続への御理解と御協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスのみならず、感染症へ正しく対応するためには、最新の科学的な知見等を知ることが不可欠です。政府として、分かりやすい広報に努めているところですが、保護者や地域の皆様におかれても科学的な知見等を日々の生活に生かしていただきたいと思います。

令和二年八月

文部科学大臣　萩生田　光一

文部科学省

児童生徒等や学生の皆さんへ

新型コロナウイルスが広がってから、皆さんは、学校はどうなるのだろう、この先どうなるだろうと、不安だったのではないでしょうか。新しい学期を迎えるに当たって、皆さんに伝えたいことがあります。

まず、感染症にかからないようにするには、いくつかの方法があります。すでに皆さんが取り組んでいるように、話をするときにはマスクをしたり、手を洗ったり、具合が悪い場合には学校を休んだりしてもらうことです。そして何より、健康的な生活を送ることが大切です。それでも、これまでも皆さんは風邪をひいたり、インフルエンザになったりしました。今はさらに新型コロナウイルスが課題になっています。

この三つは、症状がよく似ています。ですから、今後、皆さんの誰もがこうした症状を経験することがあるでしょう。具合が悪い人の中には、新型コロナウイルスに感染したと診断される人も身近な人の中から出るかもしれません。もちろん、それが友達だと分かったら自分は大丈夫かなと不安になることもあるでしょう。

新型コロナウイルスには誰もが感染する可能性があります。感染した人が悪いということではありません。学校やクラスの中で感染することは悪いことだという雰囲気ができてしまうと、新型コロナウイルスに感染したと疑われることをおそれて、具合が悪くなっても、その後は言いだしにくくなったり、病院に行くのが遅くなったりしてしまいます。そうすると、さらに皆さんの地域で感染が広がってしまうかもしれません。

感染した人や症状のある人を責めるのではなく、思いやりの気持ちを持ち、感染した人たちが早く治るよう励まし、治って戻ってきたときには温かく迎えてほしいと思います。もし、自分が感染したり症状があったりしたら、友達にはどうしてほしいかということを考えて行動してほしいと思います。

すでに、感染した人達が心ない言葉をかけられたり、扱いをされたりしているという事例が起きています。こうしたことが皆さんの周りでも起きないように、皆さんにも協力してほしいのです。

また、高齢者や病気がちの人は、感染すると症状が重くなってしまう危険があります。自分は元気だから大丈夫ということではなく、そのような人たちに感染させることがないよう、思いやりの気持ちを持ってほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症が広がり、皆さんの日々の生活は一変したと思います。
以前のようには、友達と会いにくくなり、スポーツや文化に触れる機会も少なくなり、将来への不安やストレスを抱えている人も多いでしょう。

これまでも、私たち人間は、新型コロナウイルスのような新しい病気を経験してきました。そのたびに、世界中の研究者が病気の原因を探り、予防方法を見つけたり、薬の開発をしたりしてきました。そうして、私たちは、病気と共存していく。この歴史は繰り返されています。新型コロナウイルスも研究が進んで解明されれば、予防と治療ができるようになり、新たな共存生活が始まります。

私たち大人は、皆さんの応援団として、将来の見通しを持ち、未来の社会の担い手である皆さんが学ぶ機会、遊ぶ機会、交流する機会を最大限作っていきます。それまで、皆さんは今自分ができる予防をしっかり行い、将来の目標を持ち、家庭や学校で日々の学びを続けてほしいと願っています。

令和二年八月

文部科学大臣　萩生田　光一